



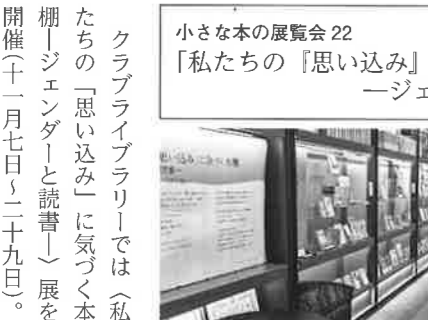
若山小学校、十一月三日に同市にある大谷小中学校敷地にレスキューキッチンカー



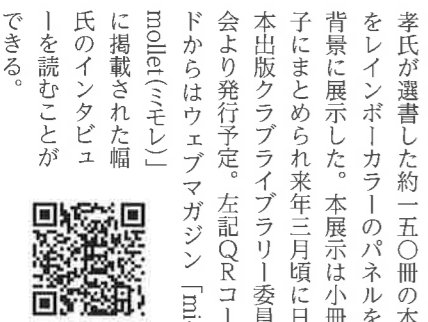
「体育館の中では、ブックカフェを見た方が胸の内を話してくれた。」



「本を読むのは震災以来」という声もあった



小さな本の展覧会22 「私たちの『思い込み』に気づく本棚—ジェンダーと読書—」



昨年実施したジェンダー関連選書につづく第二弾として、今回はパートナー、親子、仕事、世の中、教育、スポーツ、お金といった七つのカテゴリーに分

被災地の声に耳を傾けて レスキューキッチンカー&ブックカフェをオープン

【報告】鎌倉 幸子 &ブックカフェをオープン。ブックカフェにある、本をべらべらとめくりながら

エでコーヒーを飲みながら本を読んでいる様子、本をきっかけにおしゃべりが始まる空間。『本を手にとる』何気ない日常がとても大切なんだなと改めて実感しました。」と一言。



一九六九年三月に設立された日本出版学会は今年五十五周年を迎えた。講演社社長の野間省伸氏を創立五十五周年記念事業の委員長として、記念講演会へ第一部「韓国の書店産業支援政策と書店のこれから」(白源根氏)、第二部「日本コミック産業の現在 デジタル化/グローバル化の最前線」(細野修平氏)と祝賀会が出版クラブで開催された。



仮設輪島市立図書館

日本出版クラブでは、本年一月一日に発生した令和六年能登半島地震をきっかけに「日本出版クラブ震災対策室」を発足した。その経緯は震災対策室・相賀昌宏運営委員長(小学館会長)による報告が本紙前号で掲載されている。

支援を目的として、仮設住宅の供与期間が二年のため、二年間の計画となる。 珠洲市内の仮設住宅集会所十か所への図書寄贈を手始めに輪島市(十か所)、七尾市(三か所)、六水町(三か所)、能登町(三か所)の計二十九か所の仮設住宅集会所を主な図書寄贈先とする。



「能登の置き本」を実施 電気が通っていないため日光で作業をする輪島市立図書館スタッフへ配慮し、集会所等から要望のあった図書を書店で購入する費用に活動資金の一部を用いることも議論の末、決定した。



珠洲市のいろは書店の前で 目指していたが、九月二十一日に発生した能登豪雨の被害もあることから現地での受け入れ態勢も厳しく、被災地の方々の現況の情報共有を行いながら活動を展開していくことを各自自治体と模索していたなか、ようやく



十一月二十一〜二十三日に珠洲市の仮設住宅集会所や公民館に図書寄贈を実施し、「寒くなつて外出機会が減るなか、楽しい本があれば集会所に集まりやすくなる」と好評に(別項写真)。 寄贈の際の各地域までの図書の配送には日本出版取次協会、日本出版販売、トーハンのご協力を得た。

日本出版クラブ震災対策室 図書寄贈事業がスタートしました



十一月二十一〜二十三日に珠洲市の仮設住宅集会所や公民館に図書寄贈を実施し、「寒くなつて外出機会が減るなか、楽しい本があれば集会所に集まりやすくなる」と好評に(別項写真)。